

せん定技術検討会が開催されました！（Vol.25 令和7年12月）

いつになく短かった秋が終わり、峰々に雪の便りが届くようになると、果樹栽培において重要な「せん定」作業が始まります。「せん定」が本格的に始まる前に、伊那園芸技術振興委員会によりJAや普及指導員などを対象とした「せん定技術検討会」が開催され、当試験場からも講師を派遣しました。

「せん定」は、ノコギリやハサミを使って枝を切ることにより、栽培に適した樹形を作る作業です。

「せん定」の主な目的は、

- ① 栽培管理が効率的に行える樹形づくり
 - ② 空いたスペースへの枝の誘導による収量性の向上
 - ③ 樹高を下げることによる作業性や安全性の改善
 - ④ 通風や採光を確保し、散布した農薬のかかりを良くすることで品質の揃った果実を作ること
- などが挙げられます。

一方で、「せん定」は品種ごとに異なる樹体特性の理解や、周辺の樹とのバランスの考慮など、習熟するまでに多くの経験と時間を要します。そこで、当試験場では複雑な日本なしの「せん定」作業を単純化できる、平棚樹体ジョイント栽培やジョイントV字トレリス樹形（写真左）の技術開発に取り組んでいます。今後、有用な成果が得られれば、情報を発信してまいります。



日本なしジョイントV字トレリス樹形
におけるせん定検討（宮田村）



市田柿のせん定検討（高森町）